

亀ヶ岡遺跡

亀ヶ岡遺跡は、津軽平野の北側に位置する縄文時代晩期の遺跡です。津軽藩主が城を築こうとした際に発見されました。出土された土器、石器、土偶、漆塗り製品、翡翠の玉などは細かく作り込まれたものも多く、芸術性や技術力は江戸時代より国内外で高く評価されてきたそうです。最も有名なのが、国の重要文化財に指定されている大型で片足の「遮光器土偶」。まるでメガネをかけているように見える大きな目が、エスキモーが使っていた遮光器（木のスノーゴーグル）に似ていることから「遮光器土偶」と呼ばれています。

不思議で可愛らしくもある土偶は、地元で「シャコちゃん」と親しまれ、公園、掲示板、マンホールなどなど・・・至るところでその姿を発見できます。JR五能線の木造駅には、高さ17mの巨大な「シャコちゃん」オブジェがあり、駅員さんにお問い合わせすると目が光るらしいですよ♪。(橋本)



十三湖のしじみ

奥入瀬モスボール

鎌倉時代から室町時代にかけて貿易港として発展した十三湊の史跡が数多く残されている青森県津軽半島。その中ほどに十三の河川が流れ込むことからその名がついたと言われている、十三湖（じゅうさんこ）があります。

木々の緑が光り輝く季節、奥入瀬溪流の新緑も見頃を迎えます。溪流美をよりいっそう引き立てるのは、岩や倒木に生えている苔たちです。

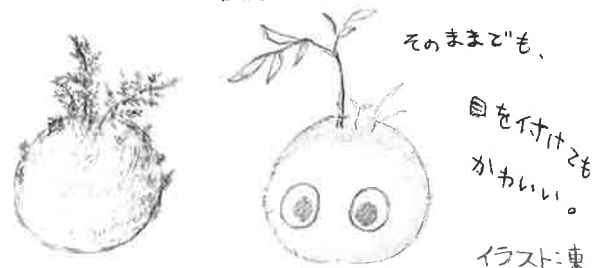
溪流からの水しぶきや湖から流れてくる霧、ふわりと吹き抜ける穏やかな風は、苔たちにとって絶好のパラダイス。約300種類以上も繁茂しています。

近年、「小さな奥入瀬溪流」を自宅で楽しめる“モスボール（苔玉）”が話題になっています。奥入瀬に生息する樹木やシダを苔玉に植えたもので、夏は青々と育ち、秋には紅葉、春にまた芽吹く…自然の移り変わりが体感できると評判です。奥入瀬溪流は特別保護地区及び天然保護区域で、全ての自然物は採取禁止なので、契約農家から仕入れたもので作ります。溪流の玄関口にある奥入瀬溪流館では、苔玉職人が作ったモスボールを展示販売しています。また体験コーナーもあり、30分ほどで簡単に作ることができるそうですよ。持ち帰りや全国発送もOK！癒し効果抜群、奥入瀬の四季をモスボールで堪能してみませんか♪（村木）

幻の鳥と言われているオオセッカや天然記念物のオオワシなどの観察地としても知られ、また近年は釣り場としても人気のようです。でも、青森県人にとって十三湖と言えば「しじみ」。あまり知られていませんが、しじみ生産量が全国第2位の青森県、岩木川と日本海に繋がっている十三湖は、淡水と海水が入り混じる汽水湖で「ヤマトシジミ」の生育には最適で、美味しいしじみが育ちます。しじみは、二日酔いに効果があることはよく知られていますが、カルシウムや鉄分、ビタミンなども豊富で貧血予防にも効果があるそうですよ。



身もぷっくりと太って旨味が濃厚な十三湖のしじみ。周辺には、しじみラーメンを食べられるお店もたくさんありますので、美味しいエキスを余すことなく味わってみて下さいね。(利野)



《お客様のお声をお聞かせください》

この紙面や八戸情報に対するお便りの他、「〇〇〇おいしかったよ。」「こんな食べ方が美味しい」といった商品に対するお便りなど、なんでも結構です。お寄せいただいたお客様の喜びの声、ご意見を元に、商品やサービスの向上に反映させていきたいと思っております。※今後、味の加久の屋からの情報をご不要という方は、お手数でも、ダイレクトメールの封筒を、同封の返信用封筒にお入れになり、ご返送ください。

か
く
の
や
便
り

第61号
平成29年4月